

マルコによる福音書

第一章 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。

二預言者イザヤの書に、

「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、

あなたの道を整えさせるであらう。

三荒野で呼ばわる者の声がする、

『主の道を備えよ、

その道筋をまっすぐにせよ』

と書いてあるように、四バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。五そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。六このヨハネは、らくだの毛ごろもを身にまとい、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。七彼は宣べ伝えて言った、「わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる。わたしはかがんで、そのくつのひもを解く値うちもない。八わたしは水でバプテスマを授けたが、このかたは、聖霊によってバプテスマをお授けになるであらう」。

九そのころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。一〇そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのようにに自分に下って来るのを、ごらんになった。一二すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

一三それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった。一四イエスは四十日のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあわれた。そして獣もそこにいたが、御使たちはイエスに仕えていた。

一五ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、一六「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。

一七さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。一八イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。

一九すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。

二〇また少し進んで行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。

二一そこで、すぐ彼らをお招きになると、父ゼベダイを雇人たちと一緒に舟において、イエスのあとについて行った。

二二それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日

にすぐ、イエスは会堂にはいつて教えられた。三一人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようにはなく、権威ある者のように、教えられたからである。三三ちようどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、三四「ナザレのイエスよ、あなたはわたしを滅ぼしにこられたの係わりがあるのです。わたしを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかつています。神の聖者です」。三五イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。三六すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。三七人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。三八こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。

三九それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいつて行かれた。四〇ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床についていたので、人々はさっそく、そのことをイエスに知らせた。四一イエスは近寄り、その手をとって起されると、熱が引き、女は彼らをもてなした。

四二夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。四三こうして、町中の者が戸口に集まった。四四イエスは、さまざまの病

をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかつた。彼らがイエスを知っていたからである。四五朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。四六すると、シモンとその仲間とが、あとを追ってきた。四七そしてイエスを見つけて、「みんなが、あなたを捜しています」と言った。四八イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。四九そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教を宣べ伝え、また悪霊を追い出された。

五〇ひとりのらい病人が、イエスのところに願いにきて、ひざまずいて言った、「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。五一イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。五二すると、らい病が直ちに去って、その人はきよくなった。五三イエスは彼をきびしく戒めて、すぐにそこを去らせ、こう言い聞かせられた、五四「何も人に話さないように、注意しなさい。ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、それから、モーセが命じた物をあなたのきよめのためにささげて、人々に証明しなさい」。五五しかし、彼は出て行って、自分の身に起ったことを盛んに語り、また言いひろめはじめたので、イエスはもはや表立っては

町に、はいることができなくなり、外の寂しい所にとどまっておられた。しかし、人々は方々から、イエスのところにぞくぞくと集まってきた。

第二章 一 幾日かたつて、イエスがまたカペナ

ウムにお帰りになったとき、家におられるといううわさが立ったので、二多くの人々が集まってきた。もはや戸口のあたりまでも、すきまが無いほどになった。そして、イエスは御言を彼らに語っておられた。三すると、人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてきた。四ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。五イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。六ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた。七「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。八イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。九中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。一〇しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者に

むかつて、「二「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。三すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見たことがない」と言った。

三 イエスはまた海へに出て行かれると、多くの人々がみもとに集まってきたので、彼らを教えられた。四また途中で、アルバヨの子レビが収税所にすわっているのを、ごらんになって、「わたしに従ってきなさい」と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った。五それから彼の家で、食事の席についておられたときのことである。六多くの取税人や罪人たちも、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。こんな人たちが大ぜいいて、イエスに従ってきたのである。七パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと食事を共にしておられるのを見て、弟子たちに言った、「なぜ、彼は取税人や罪人など、と食事を共にするのか」。八イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。九「ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちとが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。一〇すると

とイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう。三だれも、真新しい布ぎれを、古い着物に縫いつけはしない。もしそうすれば、新しいつぎは古い着物を引き破り、そして、破れがもつとひどくなる。三まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそうすれば、ぶどう酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も皮袋もむだになつてしまふ。〔だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである〕」。

三ある安息日に、イエスは麦畑の中をとおって行かれた。そのとき弟子たちが、歩きながら穂をつみはじめた。彼らはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのですか。二五そこで彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちが食物がなくて飢えたとき、ダビデが何をしたか、まだ読んだことがないのか。二六すなわち、大祭司アビアタルの時、神の家にはいつて、祭司たちのほか食べてはならぬ供えのパンを、自分も食べ、また供の者たちにも与えたではないか。二七また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。二八それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。

第三章

一イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。二人々はイエスを訴えようと、思つて、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがつていた。三すると、イエスは片手のなえたその人に、「立つて、中へ出てきなさい」と言い、四人々にむかつて、「安息日に善を行ふのと悪を行ふのと、命を救ふのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙つていた。五イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくななのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになつた。六パリサイ人たちは出て行つて、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。

七それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行つた。またユダヤから、ヘルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさつてゐることを聞いて、みもとにきた。九イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。一〇それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。二また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と

言った。三イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼ら（二）をきびしく戒められた。

三さてイエスは山に登り、みどころになつた者たち（三）を呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。四そこで十二人をお立てになつた。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、五また悪霊を追い出す権威を持たせるためであつた。六こうして、この十二人をお立てになつた。そしてシモンにペテロという名をつけ、七またゼバイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。八つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、九それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切つたのである。

イエスが家にはいられると、十群衆がまた集まつてきたので、一同は食事をする暇もないほどであつた。三身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂つたと思つたからである。三また、エルサレムから下つてきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれてゐる」と言い、「悪霊どものかしらによつて、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言つた。三そこでイエスは彼ら（四）を呼び寄せ、譬をもつて言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。二國もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。

二五また、もし家が内（うち）で分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。二六もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまふ。二七だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入つて家財を奪（うば）い取（と）ることはできない。縛（しば）つてからはじめて、その家を略奪（りやくだつ）することができぬ。二八よく言い聞かせておくが、人の子（こ）らには、その犯すすべての罪も神（かみ）をけがす言葉（ことば）も、ゆるされる。二九しかし、聖霊（せいれい）をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠（えいゑん）の罪（つみ）に定められる。三〇そう言（い）われたのは、彼ら（一）が「イエスはけがれた靈（れい）につかれてゐる」と言（い）つていたからである。

三さて、イエスの母（はは）と兄弟（きょうだい）たちとがきて、外（そと）に立ち、人をやつてイエス（二）を呼（よ）べせた。三ときに、群衆（ぐんしゅう）はイエスを囲（かこ）んですわつていたが、「ごらんなさい。あなたの母（はは）と兄弟（きょうだい）、姉妹（せまい）たちが、外（そと）であな（あな）たを尋（たず）ねておられます」と言（い）つた。三三すると、イエスは彼ら（一）に答（こた）えて言（い）われた、「わたしの母（はは）、わたしの兄弟（きょうだい）とは、だれのことか。三四そして、自分（おれ）をとりかこんで、すわつてゐる人々（ひとびと）を見（み）まわして、言（い）われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母（はは）、わたしの兄弟（きょうだい）がゐる。三五神（かみ）のみこころを行（おこな）う者はだれでも、わたしの兄弟（きょうだい）、また姉妹（せまい）、また母（はは）なのである」。

第四（よ）章（しやう） 「イエスはまたも、海（うみ）で教えはじめられた。おびただしい群衆（ぐんしゅう）がみもとに集（あつ）まつたので、イエスは舟（ふね）に乗（の）つてすわつたまふ、海上（かいじやう）におられ、群衆（ぐんしゅう）はみな

海に沿って陸地にいた。イエスは譬で多くの事を教えられたが、その教の中で彼らにこう言われた、**三**「聞きなさい、種まきが種をまきに出て行った。**四**まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。**五**ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、**六**日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。**七**ほかの種はいばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまったので、実を結ばなかった。**八**ほかの種は良い地に落ちた。そしてはえて、育って、ますます実を結び、**三十**倍、**六十**倍、**百倍**にもなった」。そして言われた、「聞く耳のある者は聞くがよい」。

一〇イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、**十二**弟子と共に、これらの譬について尋ねた。**二**そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる」。

三それは

「彼らは見るには見るが、認めず、

聞くには聞くが、悟らず、
悔い改めてゆるされることがない」

ためである。**三**また彼らに言われた、「あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。**一四**種まきは御言をまくのである。**一五**道

ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。**一六**同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、**一七**自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起つてくると、すぐつまずいてしまう。**一八**また、いばらの中にまかれたものは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、**一九**世の心づかいと、富の惑わしと、その他のいろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。**二〇**また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受け入れ、**三十**倍、**六十**倍、**百倍**の実を結ぶのである」。

三また彼らに言われた、「ますの下や寝台の下に置いために、あかりを持ってくることがあろうか。燭台の上に置くためではないか。**三**なんでも、隠されているもので、現れないものではなく、秘密にされているもので、明るみに出ないものはない。**三**聞く耳のある者は聞くがよい」。**二四**また彼らに言われた、「聞くことがらに注意しなさい。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し加えられるであろう。**二五**だれでも、持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」。

「また言われた、「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。二七夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。二八地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。二九実がいと、すぐにかまを入れる。刈入れ時がきたからである」。

三〇また言われた、「神の国を何に比べようか。また、どんな譬で言いあらわそうか。三それは一粒のからし種のようなものである。地にまかれる時には、地上のどんな種よりも小さいが、三まかれると、成長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほどになる」。

三二イエスはこのような多くの譬で、人々の聞く力にしたがつて、御言を語られた。三四譬によらないでは語られなかったが、自分の弟子たちには、ひそかにすべてのことを解き明かされた。

三五さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。三六そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。三七すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。三八ところがイエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをお

こして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。三九イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。四〇イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。四一彼らは恐れおののいて、互に言った、「いたい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。

第五章 一こうして彼らは海に向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。二それから、イエスが舟からあがれるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った。三この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。四彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを砕くので、だれも彼を押えつけないことができなかったからである。五そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。六ところが、この人がイエスを遠くから見て、走り寄って拝し、七大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願ひします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。八それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。九また彼に、「なんという名前か」と尋ねられると、「レギオンと言います。大ぜいなのですから」と答えた。一〇そして、自

分たちをこの土地から追い出さないうようにと、しきりに願いつづけた。二さて、その山の中腹に、豚の大群が飼ってあった。三霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらせてください。その中へ送ってください」。四イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。五豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわったので、人々は何事が起ったのかと見にきた。六そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になつてすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。七また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身に起った事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。八そこで、人々はイエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた。九イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供をしたいと願ひ出た。一〇しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。二そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。

三イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まつてきた。イエスは海へにおられた。四そこで、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、五しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がおおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。六そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。七さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。八多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまつたが、なんのかいもないばかりか、かえつてますます悪くなる一方であつた。九この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわつた。一〇それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思つていたからである。一一すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおつたことを、その身に感じた。一二イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。一三そこで弟子たちが言った、「ごらんとおり、群衆があなただけに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。一四しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。

三三その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。三四イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。

三五イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりしました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい」。三六イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。三七そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。三八彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、三九内にはいつて、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。四〇人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいつて行かれた。四一そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。四二すると、少女はすぐに起き上がった、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常に驚きに打たれた。四三イエスは、だれにもこの事を知らずと、きびしく彼らに命じ、また、

少女に食物を与えるようにと言われた。

第六章 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。四四そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。四五この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。四六イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われないことはない」。四五そして、そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。四七そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。

それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。四八また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、八また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないようパンも、袋も、帯の中に銭も持たず、九ただわらしをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。一〇そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいつたなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい」。

二また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい。三そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、二多くの悪霊を追出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。四さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、一五他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。一六ところが、ヘロデはこれを知り、聞いて、「わたしは首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。一七このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめとったが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを捕えて獄につないだ。一八それは、ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。一九そこで、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。二〇それはヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人であることを知って、彼を恐れ、彼に保護を加え、またその教を聞いて非常に悩まなからうと、なお喜んで聞いていたからである。二一ところが、よい機会がきた。ヘロデは自分の誕生日の祝に、高官や将校やガリラヤの重立った人たちを招いて宴会を催したが、三そこで、このヘロデヤの娘がはいつてきて舞をま

い、ヘロデをはじめ列座の人たちを喜ばせた。そこで王はこの少女に「ほしいものはなんでも言いなさい。あなたにあげるから」と言い、三さらに「ほしければ、この国の半分でもあげよう」と誓って言った。二四そこで少女は座をはずして、母に「何をお願いしましょうか」と尋ねると、母は「バプテスマのヨハネの首を」と答えた。二五するとすぐ、少女は急いで王のところに行つて願った。「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆にのせて、それをいただきますとございます」。二六王は非常に困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、少女の願いを退けることを好まなかった。二七そこで、王はすぐに衛兵をつかわし、ヨハネの首を持って来るように命じた。衛兵は出て行き、獄中でヨハネの首を切り、二八盆にのせて持ってきて少女に与え、少女はそれを母にわたした。二九ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、その死体を引き取りにきて、墓に納めた。三〇さて、使徒たちはイエスのもとに集まつてきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。三一分とイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。三二そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。三三ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、

一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。三四イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をぐらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。三五ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。三六みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。三七イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。三八するとイエスは言われた、「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。三九そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。四〇人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。四一それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなに分けになった。四二みんなの者は食べて満腹した。四三そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。四四パンを食べた者は男五千人であった。四五それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう

岸のベツサイダへ先におやりになった。四六そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。四七夕方になったとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。四八ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをぐらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとされた。四九彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。五〇みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。五一そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。五二先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。五三彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。五四そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知って、五五その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。五六そして、村でも町でも部落でも、イエスがいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいと、お願いした。そしてさわった者は皆いやされた。

第七章 一 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まっ

た。二そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。三もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。四また市場から帰ったときには、身を清めてからでないと、食事をせず、なおそのほかに、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった。五そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。六イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、

『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。七人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拜んでいる』。

八あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している。九また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。一〇モーセは言ったではないか、『父と母を敬え』。また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と。二それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたがたに差上げるはずのこのも

のはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、三その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。四三こうしてあなたがたは、自分たちが受けついで言伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている。二四それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。二五すべて外から人の中にはいつて、人をけがするものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがするのである。二六聞く耳のある者は聞くがよい」。二七イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの壁について尋ねた。二八すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいつて来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。二九それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。三〇さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。三すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、三三姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。三三これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがするのである。二四さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中に

はいられたが、隠れていることができなかった。二五そして、けがれた霊につかれた幼い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。二六この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生れであつた。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願ひした。二七イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。二八すると、女は答えて言つた、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。二九そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。三〇そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまつていた。

三一それから、イエスはまたツロの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通りぬけ、ガリラヤの海べにこられた。三二すると人々は、耳が聞えず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていたのだきといとお願ひした。三三そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中からお連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、三四天を仰いでため息をつき、その人に「エパタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。三五すると彼の耳が開け、その舌のもつれもすぐ解けて、はっきりと話すようになった。三六イエスは、この事

をだれにも言つてはならぬと、人々に口止めをされたが、口止めをすればするほど、かえって、ますます言いひろめた。三七彼らは、ひとかたならず驚いて言つた、「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。

第八章 一そのころ、また大ぜいの群衆が集

まつていたが、何も食べるものがなかつたので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。三もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切つてしまふであらう。それに、なかには遠くからきている者もある」。四弟子たちは答へた、「こんな荒野で、どこからパンを手に入れて、これらの人々にじゅうぶん食べさせることができましようか」。五イエスが弟子たちに、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります」と答へた。六そこでイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡される。七また小さい魚が少しばかりあつたので、祝福して、それをも人々に配るようになつた。八彼らは食べて満腹した。九そして残つたパンくずを集めると、七かごになつた。九人々の数はおよそ四千人であつた。それからイエスは彼らを解

散させ、〇すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。

二パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。三イエスは心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。四そして、イエスは彼らを残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。

五弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせがなかった。六そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘ

ロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。七弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていなかったためであらうと、互に論じ合った。八イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言論じ合っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。九目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。一五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかごになったか。弟子たちは答ええた、「十二かごです」。二〇七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかごに拾い集めたか。七かごです」と答えた。二二そこでイエスは彼らに言われた、「まだ悟らないのか」。

三そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていた。きたいとお願ひした。四イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。五すると彼は顔を上げて言った、「人が見えます。木のように見えます。歩いてゐるようです」。六それから、イエスが再び目の上に両手を当てられると、盲人は見つめてゐるうちに、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。七そこでイエスは、「村にはいつてはいけない」と言って、彼を家に帰された。

八さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。九彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言ひ、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。一〇そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言ひか」。ペテロが答えて言った、「あなたがたこそキリストです」。一一するとイエスは、自分のことをだれにも言つてはいけないと、彼らを戒められた。

一二それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、

三 しかも知れず、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、
 三 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神の事を思わないで、人のことを思っている」。

三 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。三 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。三 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になるうか。三 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。三 邪悪で罪深いこの時代にあつて、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうち、に聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」。

第 九 章 一 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもつて来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

二 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、三 その衣は真白く輝き、どんな布

さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいになった。四 すると、エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。五 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここに居るのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。六 そう言ったのは、みんなの者が非常に恐れていたもので、ペテロは何を言つてよいかわからなかったからである。七 すると、雲がわき起つて彼らをおおった。そして、その雲の中から声があつた、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。八 彼らは急いで見まわしたが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが、自分たちと一緒におられた。

九 一同が山を下つて来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。一〇 彼らはこの言葉を心にため、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。二 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。三 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多く苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。三 しかしあなたがたに言つておく、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書

いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」。二四さて、彼らがほかの弟子たちの所にきて見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。二五群衆はみな、すぐイエスを見つけて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あいさつをした。二六イエスが彼らに、「あなたがたは彼らと何を論じているのか」と尋ねられると、一七群衆のひとりが答えた、「先生、おしの霊につかれてゐるわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。一八霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子たちに、この霊を追い出してください。一九イエスは答えて言われた、「ああ、なんとこの不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができませんか。その子をわたしの所に連れてきなさい」。二〇そこで人々は、その子を含みもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きながらころげまわった。二三そこで、イエスが父親に、「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。二三霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください

い」。二三イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。二四その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。二五イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「おしとつんぼの霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいつて来るな」。二六すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。その子は死人のようになったので、多くの人は、死んだのだと言った。二七しかし、イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。二八家にはいられたとき、弟子たちはひそかにお尋ねした、「わたしたちは、どうして霊を追いつけなかったのですか」。二九すると、イエスは言われた、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追いつくことはできない」。三〇それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。三三それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。三三しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。三三それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたが

たは途中で何を論じていたのか。三〇 彼らは黙っていた。それは途中で、だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていたからである。三一 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない。」三二 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。三三「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そして、わたしを受けいれる者は、わたしを受けいれるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである」。

三八 ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出していのを見ましたが、その人はわたしたちについていかなかったで、やめさせました」。三九 イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそしめることはできない。四〇 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である。四一 だれでも、キリストについている者だといふので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言っておくが、決してその報いからもれることはないであろう。四二 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首

にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい。四三 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、かたわらになって命に入る方がよい。四四 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」四五 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。四六 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」四七 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出しなさい。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。四八 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。四九 人はすべて火で塩づけられねばならない。五〇 塩はよいものである。しかし、もしその塩の味がぬけたら、何によつてその味が取りもどされようか。あなたがた自身の内に塩を持ちなさい。そして、互に和らぎなさい」。

第一〇章 「それから、イエスはそこを去つて、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。二 そのとき、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして質問した、「夫はその妻を出しても差しつかえないでしょうか」。三 イエスは答えて言われた、「モーセはあなたがたになんと命じたか」。四 彼らは

言った、「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」。五そこでイエスは言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、あなたがたのためにこの定めを書いたのである。六しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。七それゆえに、人はその父母を離れ、八ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。九だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。一〇家にはいつてから、弟子たちはまたこのことについて尋ねた。二そこで、イエスは言われた、「だれでも、自分の妻を出して他の女をめとる者は、その妻に対して姦淫を行うのである。三また妻が、その夫と別れて他の男にとつぐなれば、姦淫を行うのである」。

三イエスにさわっていたために、人々が幼な子らをもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。四それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。五よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。一六そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。

一七イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命

を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。一八イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。一九いましめはあなたの知っているとおりである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』。二〇すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。二一イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。二二そして、わたしに従ってきなさい」。二三すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさん

の資産を持っていたからである。二三それから、イエスは見まわして、弟子たちに言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」。二四弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。二五富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。二六すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだらう」。二七イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。二八ペテロがイエスに言い出した、「ごらんなさい、わ

たしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました。三九イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、三〇必ずその百倍を受ける。すなわち、今の時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。三十一しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

三二さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、三三「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。三四また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまふ。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

三五さて、ゼベダイの子のヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようになり願ひします」。三六イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。三七すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるように

してください」。三八イエスは言われた、「あなたがたは自分は何を求めているのか、わかつていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。三九彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。四〇しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられてゐる人々だけに許されることである」。四一人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。四二そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた、「あなたがたの知っているのとおり、異邦人の支配者と見られてゐる人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。四三しかし、あなたがたの間では、そうであつてはならない。かえつて、あなたがたの間で偉くなりた

いと思ふ者は、仕える人となり、四四あなたがたの間でかしらになりたいと思ふ者は、すべての人の僕とならねばならない。四五人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。四六それから、彼らはエリコにきた。そして、イエスが弟子たちや大ぜいの群衆と共にエリコから出かけられたとき、テマイの子、バルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。四七ところが、ナザレのイエスだと

聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。八多くの人々は彼をしかつて黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた。「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。四九イエスは立ちどまって「彼を呼べ」と命じられた。そこで、人々はその盲人を呼んで言った、「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」。五〇そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあがってイエスのもとにきた。五一イエスは彼にむかって言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。その盲人は言った、「先生、見えるようになることです」。五二そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。

第一章 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、「三むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。三もし、だれかがあなたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してください。まずと、言いなさい」。四そこで、彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口に、ろばの子がつないであるのを見たので、それを解いた。五すると、そこに立っていた人々が

言った、「そのろばの子を解いて、どうするのか」。六弟子たちは、イエスが言われたとおり彼らに話したので、ゆるしてくれた。七そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった。八すると多くの人々は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。九そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、

「ホサナ、

主の御名によってきたる者に、祝福あれ。

一〇今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。

いと高き所に、ホサナ」。

二こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。

三翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。四そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。五そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がいないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。

一五それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買ひしていた人々を追ひ出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、一六また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。一七そして、彼らに教えて言われた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巢にしてしまった。一八祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。

一九夕方になると、イエスと弟子たちとは、いつものように都の外に出て行った。

二〇朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た。二三そこで、ペテロは思ひ出してイエスに言った、「先生、ごらんなさい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。三三イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。三三よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言ひ、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであらう。三四そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりに成るであらう。三五また立つて祈るとき、だれかに対して、

何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであらう。一三六もしゆるさないうならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださらないであらう」。

二七彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、二八「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。二九そこで、イエスは彼らに言われた、「一つだけ尋ねよう。それに答えてほしい。そうしたら、何の権威によって、わたしがこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。三〇ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。三三すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言へば、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう。三三しかし、人からだと言へば……」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。三三それで彼らは「わたしたちにはわかりません」と答えた。するとイエスは言われた、「わたしも何の権威によつてこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。

第一二章 「そこでイエスは譬で彼らに語り出された、ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、

旅に出かけた。二季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を取り立てさせようとした。三すると、彼らはその僕をつかまえて、袋だたきにし、から手で帰らせた。四また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。五そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺したりした。六ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思つて、最後に彼をつかわした。七すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、八彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。九このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。一〇あなたがたは、この聖書の句を読んだことがないのか。

『家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった。』

二これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える。三彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

二三さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、

イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。二四彼らはきてイエスに言った、『先生、わたしたちはあなたが真実なことで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてくださいます。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないのでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか。』二五イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、『なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい。』二六彼らはそれを持ってきた。そこでイエスは言われた、『これは、だれの肖像、だれの記号か。』二七彼らは『カイザルのです』と答えた。二八するとイエスは言われた、『カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。』二九彼らはイエスに驚嘆した。三〇復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのもとにきて質問した。三一先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もし、ある人の兄が死んで、その残された妻に、子がない場合には、弟はこの女をめぐって、兄のために子をもうけねばならない。』三二ここに、七人の兄弟がいました。長男は妻をめぐりましたが、子がなくて死に、三三次男がその女をめぐって、また子をもうけずに死に、三男も同様でした。三三こうして、七人ともみな子孫を残しませんでした。最後にその女も死にました。三三復活のとき、彼らが皆よみ

がえった場合、この女はだれの妻なのでしょう。七人とも彼女を妻にしたのです。二四 イエスは言われた、「あなたがたがそんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではないか。二五 彼らが死人の中からよみがえるときには、めとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。二六 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を讀んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。二七 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。

二八 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか。二九 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。三〇 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。三一 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事なないましめは、ほかにない。三二 そこで、この律法学者はイエスに言った、「先生、仰せのとおりです、『神はひとりであつて、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんと

うです。三三 また『心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣り人を愛する』ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです。三四 イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、「あなたは神の国から遠くない」。それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。

三五 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。三六 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、『主はわが主に仰せになった、

あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、わたしの右に座していなさい』。

三七 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であるうか。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。三八 イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、三九 また会堂の上席、宴会の上座を好んでいる。四〇 また、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもつときびしいさばきを受けるであらう」。

四一 イエスは、さいせん箱にむかつてすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさん金を投げ入れていた。四二 ところが、ひと

りの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一
コドラントに当る。四三そこで、イエスは弟子たちを呼び
寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、
さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりも
たくさん入れたのだ。四四みんなの者はありあまる中から
投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる
持ち物、その生活費全部を入れたからである」。

第一三章 イエスが宮から出て行かれるとき、弟
子のひとりと言った、「先生、ごらんなさい。なんといい
見事な石、なんといい立派な建物でしょう」。ニイエスは
言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめてい
るのか。その石一つでもくずされないうまで、他の石の
上に残ることもなくなるであらう」。

三またオリブ山で、宮にむかつてすわっておられると、
ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ね
した。四「わたしたちにお話してください。いつ、そんなこ
とが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成
就するような場合には、どんな前兆がありますか」。五そ
こで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないよ
うに気をつけなさい。六多くの者がわたしの名を名のつ
て現れ、自分がそれだと言つて、多くの人を惑わすであ
らう。七また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あ
わてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではな
い。八民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであらう。

またあちこちに地震があり、またききんが起るであらう。
これらは産みの苦しみの初めである。

九あなたがたは自分で気をつけていなさい。あなたが
たは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で
打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対し
てあかしをさせられるであらう。一〇こうして、福音はま
ずすべての民に宣べ伝えられねばならない。一一そして、
人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を
言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示
されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身では
なくて、聖霊である。一二また兄弟は兄弟を、父は子を殺
すために渡し、子は両親に逆らつて立ち、彼らを殺させ
るであらう。一三また、あなたがたはわたしの名のゆえに、
すべての人に憎まれるであらう。しかし、最後まで耐え
忍ぶ者は救われる。

一四荒らす憎むべきものが、立つてはならぬ所に立つの
を見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる
人々は山へ逃げよ。一五屋上にいる者は、下におりな。
また家から物を取り出そうとして内にはいるな。一六畑に
いる者は、上着を取りにあとへもどるな。一七その日には、
身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。一八この
事が冬おこらぬように祈れ。一九その日には、神が万物を
造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今
後もないような患難が起るからである。二〇もし主がその

期間を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。三そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。三にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。三だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言っておく。

二四その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、二五星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。二六そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。二七そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

二八いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。二九そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていと知りなさい。三〇よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。三一天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。三二その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、

また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。三三氣をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。三四それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちにそれぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。三五だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方かわからないからである。三六あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。三七目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである。

第一四章 一さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたいと、なんとかして殺そうと計っていた。二彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。

三イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家について、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れている石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。四すると、ある人々が憤って互に言った、「なんのために香油をこんなにむだにするのか。五この香油を三百デナリ以上にも売って、貧しい人たちに施すことができたの

に」。そして女をきびしくとがめた。するとイエスは言われた、「するままにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。七貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。この女はできる限りの事をしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである。よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。

二〇ときに、十二弟子のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭司長たちに引きわたそうとして、彼らの所へ行った。二彼らはこれを聞いて喜び、金を与えることを約束した。そこでユダは、どうかしてイエスを引きわたそうと、機会をねらっていた。

二三除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊をほふる日に、弟子たちがイエスに尋ねた、「わたしたちは、過越の食事をなさる用意を、どこへ行ったらよいでしょうか」。三そこで、イエスはふたりの弟子を使いに出して言われた、「市内に行くと、水がめを持っている男に出会うであろう。その人について行きなさい。四そして、その人がはいつて行く家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられ

ます』。五するとその主人は、席を整えて用意された二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために用意をきなさい。六弟子たちは出かけて市内に行つて見ると、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。

七夕方になって、イエスは十二弟子と一緒にそこに行かれた。八そして、一同が席について食事をしてるとき言われた、「特にあなたがたに言っておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。九弟子たちは心配して、ひとりひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。一〇イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。三たしかに人の子は、自分について書いてあるとおり去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわいである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。

三一一同が食事をしてるとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。三三また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。三四イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。三五あなたがたによく言っておく。神の国で新しく飲むその日まで、わたしは決して二

度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
 二六 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。

二七 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。二八 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガラリヤへ行くであろう。二九 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。三〇 イエスは言われた、「あなたによく言っておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう。三一 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。

三二 さて、一同はゲツセマネという所に来た。そしてイエスは弟子たちに言われた、「わたしが祈っている間、ここにすわっていなさい」。三三 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめ、彼らに言われた、三四 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。三五 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしでさることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと

祈りつづけ、そして言われた、三六 「アベ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。三七 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。三八 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。三九 また離れて行って同じ言葉で祈られた。四〇 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。そして、彼らはどうお答えしてよいかわからなかった。四一 三度目にきて言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよかろう。時がきた。見よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。四二 立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた」。

四三 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。また祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒とを持って彼についできた。四四 イエスを裏切る者は、あらかじめ彼らに合図をしておいた、「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえて、まちがひなく引っぱって行け」。四五 彼は来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。四六 人々はイエスに手をかけて

つかまえた。四七すると、イエスのそばに立っていた者のひとり、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した。四八イエスは彼らにむかつて言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。四九わたしは毎日あなたがたと一緒に宮にいて教えていたのに、わたしをつかまえはしなかった。しかし聖書の言葉は成就されねばならない。五〇弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。

五二ときに、ある若者が身に亜麻布をまとい、イエスのあとについて行ったが、人々が彼をつかまえようとしたので、五三その亜麻布を捨てて、裸で逃げて行った。

五三それから、イエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな集まってきた。五四ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭まではいり込み、その下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。

五五さて、祭司長たちと全議会とは、イエスを死刑にするために、イエスに不利な証拠を見つけようとしたが、得られなかった。五六多くの者がイエスに対して偽証を立てたが、その証言が合わなかったからである。五七ついに、ある人々が立ちあがり、イエスに対して偽証を立てて言った、五八「わたしたちはこの人が『わたしは手で造つたこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ』と言うのを聞きました」。五九しかし、

このような証言も互に合わなかった。六〇そこで大祭司が立ちあがって、まん中に進み、イエスに聞きただして言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか。六一しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。六二大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。六三イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。六四すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「どうして、これ以上、証人の必要があるう。六五あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか。すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。六六そして、ある者はイエスにつばきをかけ、目隠しをし、こぶしでたたいて、「言いあててみよ」と言いはじめた。また下役どもはイエスを引きとって、手のひらでたたいた。六六ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとり、七二ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。六八するとペテロはそれを打ち消して、「わたしは知らない。あなたの言うことがなんの事か、わからない」と言って、庭口の方に出て行った。六九ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。七〇ペ

テロは再びそれを打ち消した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。セしかし彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。セするとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。

第一五章 一夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。ニピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。三そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。四ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。五しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。

六さて、祭のたびごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人ひとり、ゆるしてやることにしていた。七ここに、暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒の中に、バラバという者がいた。八群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、九ピラトは彼ら

にむかって、「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。一〇それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。一一しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。三そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。二三彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。四ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは「一そう激しく叫んで、『十字架につけよ』」と言った。一五それで、ピラトは群衆を満足させようと思つて、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

一六兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の内に連れて行き、全部隊を呼び集めた。一七そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、一八ユダヤ人の王、ばんざい」と言つて敬礼をしはじめた。一九また、葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拜んだりした。二〇こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。三そこへ、アレキサンデルとルボスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったので、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。三そしてイエスをゴルゴタ、

その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。^{二三}そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。^{二四}それから、イエスを十字架につけた。そしてくじを引いて、だれが何を取るかを定めた。うえ、イエスの着物を分けた。^{二五}イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。^{二六}イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。^{二七}また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、ひとりを左に、十字架につけた。「^{二八}こうして「彼は罪人たちのひとりに数えられた」と書いてある言葉が成就したのである。」^{二九}そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、^{三〇}十字架からおりてきて自分を救え」。^{三一}祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒に、^{三二}「かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。^{三三}イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。^{三四}また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

^{三五}昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。^{三六}そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタン」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。^{三七}すると、そばに立っていたある人々

が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。^{三八}ひとりの人が走って行き、海綿に酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう」。^{三九}イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。^{四〇}そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。^{四一}イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。^{四二}また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。^{四三}彼らはイエスがガラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

^{四四}さて、すでに夕がたになったが、その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、^{四五}アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。^{四六}ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。^{四七}そして、百卒長から確かめた上、死体をヨセフに渡した。^{四八}そこで、ヨセフは亜麻布を買い求め、イエスをとりおろして、その亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入口

に石をころがしておいた。^{四七} マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが納められた場所を見とどけた。

第一 六章 一 さて、安息日が終わったので、マグダ

ラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行つてイエスに塗るために、香料を買い求めた。^二そして週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行つた。^三そして、彼らは「だれが、わたしたちのために、墓の入口から石をころがしてくれるのでしょうか」と話し合つていた。^四ところが、目をあげて見ると、石はすでにころがしてあつた。この石は非常に大きかつた。^五墓の中にはいると、右手に真白な長い衣を着た若者がすわっているのを見て、非常に驚いた。^六するとこの若者は言つた、「驚くことはな。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであらうが、イエスはよみがえつて、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。^七今から弟子たちとペテロとの所へ行つて、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおり、そこでお会いできるであらう、と」。^八女たちはおののき恐れながら、墓から出て逃げ去つた。そして、人には何も言わなかつた。恐ろしかったからである。

「九週の初めの日の朝早く、イエスはよみがえつて、まづマグダラのマリヤに御自身をあらわされた。イエスは

以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたことがある。^{一〇}マリヤは、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいる所に行つて、それを知らせた。^二彼らは、イエスが生きておられる事と、彼女に御自身をあらわされた事とを聞いたが、信じなかつた。

三 この後、そのうちのふたりが、いなかの方へ歩いていると、イエスはちがつた姿で御自身をあらわされた。^三このふたりも、ほかの人々の所に行つて話したが、彼らはその話を信じなかつた。

四 その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになつた。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかつたからである。^五そして彼らに言われた、「全世界に出て行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。^六信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。^七信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、^八ハへびをつかむであらう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。

九 主イエスは彼らに語り終つてから、天にあげられ、神の右にすわられた。^{一〇}弟子たちは出て行つて、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもつて、その確かなことをお示しになつた。」